



『平家谷殺人事件 浅見光彦シリーズ番外』

『孤道』完結プロジェクト最優秀賞『孤道 完結編 金色の眠り』の著者・利久井清水氏による浅見家の先祖が活躍するミステリーがついに発売!



あらすじ

時は明治。代言人（弁護士）試験に落ち、人生の行く末を考えていた浅見元彦の元に、文士（小説家）志望の友人・内田紫堂が不思議な話を持ち込んできた。高知の緒智村に滞在する友人が、紫堂と元彦に謎解きを依頼したいというのだ。さっそく高知へと向かった二人を待ちうけていたのは、「祟り」に怯える村人たちと、依頼主の死の知らせだった。消失した死体、事件を予言する老婆、そしてさらなる死者——。平家の落人伝説が残る地で、浅見家の先祖の謎解きが幕を開ける。

登場人物

浅見元彦……主人公。24歳。無職。東京法学院卒業。代言人を目指していたが試験に落ちた。煉瓦町に下宿中。
内田紫堂……元彦の友人。24歳。帝国大学に籍を置き文士を目指している。実家は江戸時代から続く信州の名家。
浅見陽山……元彦の兄。38歳。内務省警保局長。浅見光彦の曾祖父にあたる。
お雪……元彦の下宿先の女主人。越後出身。若い頃、浅見家で女中をしていた。
おスミ……お雪の一人娘。17歳。お雪と共に元彦を「坊っちゃん」と呼ぶ。

注目ポイント

■浅見光彦の名推理は先祖伝来!?

浅見家の居候にしてフリーのルポライター・浅見光彦は好奇心の塊で、「事件」と聞くとすぐに首をつっこむ名探偵。一方、煉瓦町の下宿代を兄に出してもらっている代言人の卵・浅見元彦もまた、ある盗難事件を解決したことがきっかけで「探偵」と呼ばれるようになっていた。

■「お雪」と「雪江」、「おスミ」と「須美子」!?

浅見元彦を下宿人として置いているお雪とおスミの母娘。浅見光彦シリーズには浅見光彦の母親・雪江とお手伝いの吉田須美子が登場しますが、似た名前の組み合わせの二組の女性に繋がりはあるのでしょうか。それとも不思議な偶然？

■あの名場面はどうなる!?

「浅見刑事局長の弟君でいらっしゃいましたか——」。光彦の身元が判明した際、警察官の対応が豹変するお馴染みのシーンは、『平家谷殺人事件』にも登場するようです。はたして明治時代ではどう描かれるのでしょうか。

■『平家伝説殺人事件』との繋がりは!?

浅見光彦シリーズでヒロインの人気ナンバー1である稲田佐和が登場する『平家伝説殺人事件』。本作『平家谷殺人事件』も高知が舞台ですが、関連はあるのでしょうか。

■ソアラとブルゾン!?

浅見光彦といえば白いソアラにブルゾンがトレードマークですが、元彦が活躍するのはソアラもブルゾンもなかった明治時代。元彦の服装や移動手段も楽しみの一つ。

■その他の注目ポイント

平家の宝物が隠されていたとされる山中の洞窟前で発見され、消えた死体。高知に伝わる「七人ミサキ」の伝承と祟り。浅見元彦が辿り着いた真相は!?

